

数学総合演習	講 師 竹内 芳衛
--------	-----------

1. 授業のねらい・概要

数理的な方法が必要な授業科目を履修するための準備として、高校数学のいくつかの分野の復習をしつつ、基礎的な数学の知識を学ぶ。

2. 授業の進め方

演習形式

3. 授業計画

1. 整式の加法・減法，単項式の積 2. 整式の積，展開公式，因数分解 3. 因数分解，整式の除法 4. 最大公約数・最小公倍数，分数式 5. 繁分数式，平方根，有理化，絶対値 6. 連立1次方程式，2次方程式 7. 恒等式，剰余の定理，因数定理 8. 2次不等式，3次不等式，連立不等式	9. 集合の要素の個数，命題，逆・裏・対偶 10. 等式の証明，不等式の証明 11. 2次関数のグラフ，2次関数の定義域と値域 12. 奇関数と偶関数，分数方程式，無理方程式 13. グラフの平行移動，累乗根，指数法則 14. 三角比の計算，直線の方程式 15. まとめ
---	---

4. 到達目標

1. 教科書にある数学の知識が理解できるようになる。
2. 教科書にある数学の問題が解けるようになる。

5. 準備学修に必要な時間，またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

授業前に教科書の該当する部分に目を通しておくこと。

6. 成績評価の方法・基準

定期試験の点数と平素の活動状況で評価する。

7. テキスト・参考文献

TAMS，基礎数学，電気書院，2009

8. 受講上の留意事項

教科書販売開始前の授業を除く毎回の授業中に，教科書の指定箇所の提示または提出が求められる。提示（提出）がない回は授業への積極的な参加がないものとみなすので，教科書を忘れないこと。（必ず新しい教科書を購入すること）

履修者の学修時間が「学則が規定する学修時間の90%（2単位90時間×0.9＝81時間）に満たない」と科目担当者が判断した場合には，「本科目を履修した」といえないので，定期試験を受けられない。

ただし，授業外の学修時間は定期試験の結果から推定するので，「受験は暫定的に認めるが，その結果から学修時間不足と推定した場合には受験資格なしとみなす」ということもあり，その場合は再試験も受けられなくなる。

なお，授業時の学修時間は出席状況と課題提出で計算するが，欠席の場合も「証明書等を完備した欠席届が，欠席後最初の授業出席時まで提出された場合」に限り，学修時間の一部を算入することもある。

詳細は1回目の授業時に説明するので出席すること。因みに，欠席届の期限内提出がなく欠席5回以上の場合には，定期試験を受けられないことが確定する。